



思いをつなぐ いのちをつなぐ

tsunagu

つなぐ

3.11を忘れない  
今、わたしたちにできること



◎2P～3P

・なくそテ原発・柏崎大集会詳細と崎山さん講演内容  
・30キロ圏内立地自治体並みの安全協定

Vol. 6

2014年10月5日発行  
つなげよう脱原発の輪  
上越の会 会報  
発行責任者：植木史将

## 8.24 なくそテ原発・柏崎大集会 大成功！！

1400人、20団体が参加！（上越からは150人）

長野県他、全国からも多数来場！



当会高野さんの号令で！

8月24日（日）、柏崎アルフォーレ1100人大ホールにて。（大ホールに入りきれず、第二会場も満席） 詳細は2～3P。

### 「大飯原発の差止福井地裁判決の意義と柏崎刈羽原発差止訴訟の展望」

の内容で、市民にも広報し、8.24 柏崎大集会の参加呼びかけも兼ね講演会を行いました。

講師：田中 淳哉弁護士（上越中央法律事務所、脱原発新潟県弁護団）

日時：8月7日（木） 会場：上越市民プラザ 参加者：22名

田中弁護士より、大飯原発差止福井地裁判決の画期的な判決内容を3つのポイント ①裁判所の独自判断がされたこと、②原発の抱える本質的な危険性を認めたこと、③人格権の重要性をふまえた判断枠組みを項目ごとに解説していただきました。続けて柏崎刈羽原発訴訟にもつながる判決の影響に触れ、裁判に勝つためには私たちが世論と運動を広げていくように提言がありました。規制委員会の新基準適合審査と原発再稼働は一致しないと丁寧に質問にもお答えいただきました。



# ◆◇8.24なくそテ原発柏崎大集会◇◆

## オープニングの合唱 県内各地からの有志により

「風を返して 土を返して」「角田山」



## 柏崎からの報告



「隣接に住む者として再稼働は絶対にありえない！」  
『2度の大地震で複雑な構造の原発はダメージ。2007年中越沖地震で大気と海洋に大量の放射性物質が放出』  
原発から2キロに住む  
柏崎市 吉田隆介さん

## 主催者挨拶

昨年11月の県知事署名の交流会において「どうにかして再稼働を防ぎたい。柏崎での集会をぜひ」という声が複数上がり、その後8か月という時間をかけて今日に至ります。

この運動の原点は福島です。福島の現実を目を向け、福島の声に耳を傾けること。そして「福島を忘れない」こと。二度と繰り返してはいけない教訓として、福島に住む方々、避難されている方々の思いとして。

署名でつながり、署名がこの集会を生み出しました。署名を通じて泉田県知事もやり取りができ、テロや停止中の原発の危険性に対する知事の意識を高めることがで

きました。これからも署名の可能性に期待し、署名運動を盛り上げていきたいと思えます。

電力会社、政府、推進派は庶民から見えないところで着々と再稼働の準備を進めています。事が明るみになってからではもう手遅れです。今から、今、反対の声を上げることが必要です。みなさん力を合わせてがんばりましょう。



なくそテ原発・柏崎大集会 実行委員長 植木史将

## 福島からの避難者の声

『妊娠五か月の妻を連れて避難所を転々。皆さんも家族で避難場所を決めておいてください。』

福島県南相馬市から  
長岡市に避難 水口一八さん



## 特別報告

「福井地裁 大飯原発3,4号機  
運転差止訴訟判決の意義」  
『豊かな国土とそこに国民が根を下して生活をしていることが国富』  
柏崎刈羽原発運転差止訴訟  
弁護団事務局長 松永仁さん



## 参加団体1分間リレーメッセージ

参加20団体のうち13団体が1分間ずつ各団体の活動をPR。集会参加者からのアンケートによるとこれがとても評判が良かったそうです。



『つな脱と呼んでください。あの日、普通のおじさん・おばさんの私達に何か行動をしなければという思いが生まれました。本日の実行委員長の植木さんの呼びかけで、それが1つになりました。脱原発の一点でつながる個人参加の会です。私達は、署名を通して原発の危険に気づいてもらえるよう対話を心がけています。』

つなげよう脱原発の輪 上越の会の発表は、吉川区の山岸さん

## 風船飛ばし

115個を飛ばし、一つが125キロ離れた福島県会津若松市に届きました。



## デモ行進

柏崎市民に廃炉訴え、約1000人による大行進。沿道では、手を合わせて拝み続けるおばあさんの姿も。



## 「崎山比早子さん講演内容」

### 「終わらない福島原発事故と放射能——国会事故調査で分かったこと」

なくそて原発柏崎大集会のメイン講演者である、元国会事故調査委員会委員で医学博士の崎山比早子さんの講演内容を簡潔にまとめてみました。(講演時間は約 50 分間)

#### ①福島原発事故現場の現在の状況

- ・事故時に放出された量の約 800 倍の放射能が、事故現場に曝されている。
- ・汚染物の詰まったコンテナバックの寿命は 3～5 年。中身の半減期は 30 年。

#### ②国会事故調査委員会で明らかにしたこと

##### a.福島でヨウ素剤はなぜ服用されなかったのか？

- ・チェルノブイリで 1080 万人の子供がヨウ素剤を服用したが、副作用の報告ゼロ。
- ・過酷事故を想定しておらず、また無用に副作用を恐れ、対応ができなかった。

##### b.低線量放射線（100 ミリシーベルト以下）について

- ・電力会社が想定する最大のリスクは、「原発の長期停止」（内部資料で判明）。
- ・電力会社はこのリスクを避けるため、規制基準を緩和するように働きかけていた。
- ・放射線による細胞の変異（がんのもと）は元に戻らず蓄積されていく。
- ・年間 1 ミリシーベルト以下でも発がんのリスクはゼロではない。（現在の基準は年間 20 ミリシーベルト）
- ・発がんのリスクがゼロになるのは、放射線がゼロのとき。低くてもあればリスクがある。

#### ③終わりに

「低線量被曝のリスクはない」とするのは、政治的経済的視点から。科学的根拠に基づき人権の視点から見れば原発のない社会は必然。小さな力を積み重ね続け、手をつないで脱原発運動を大きくしていきたい。



## 30 キロ圏内立地自治体並みの安全協定について

原子力発電所が人口密集地には建てられず、万が一のことを考えて立地されていることは、周知の事実である。3.11 福島原発の事故以後、政府は原発からの避難距離をこれまでの半径 8～10 キロから半径 30 キロ圏内に拡大し、その地域を新たな避難地域としてこれに該当する市町村に防災計画の立案を促している。福島の実状を見ると、30 キロという設定自体問題があると思うのだが、「安全」という点ではこの範囲内の立地自治体と周辺自治体とは同じだということ政府が認めたということである。

柏崎刈羽原子力発電所の 30 キロ圏内には、43 万人が現在暮らしており、東海第 2 原発では、なんと 93 万人が暮らしている。どう考えても避難は不可能といえる。周辺自治体としては、「危険を押し付けられ、避難計画を義務づけられているのに発言権が立地自治体と同じでないのはおかしい」と思うのは当然であり、せめて立地自治体並みの安全協定を結ぶべきであるという要求になる。3 月上越市議会にこの要求を請願という形で当会は提出したが、残念ながら実現には至らなかった。この動きは、「脱原発をめざす新潟市民フォーラム」の新潟市議会への陳情、「緑の党 グリーンプラン」の柏崎刈羽原発 UPZ 圏 7 自治体への安全協定の見直し要求に繋がっていった。また県外では、函館市にみられるように、自治体としてはじめての原告となる「大間原発差し止め訴訟」が 4 月に起こされた。この裁判で函館市は、函館と大間は花火がよく見える距離にありながら原発建設に対する発言権がないことは、行政として住民の安全を守る義務を果たすことができないことを全面に掲げている。更に 5 月には、福井地方裁判所において、関西電力に対し、大飯原発から半径 250 キロ圏内の住民の人格権に基づき、原子炉の運転差し止めを命じる判決が言い渡された。

原子力発電所の運転に係ることは、立地自治体のみならず与えられた電力会社との協議に収まることではない。放射性物質の危険から命を守るということでは、住民の安全や生存を基礎とする人格権に及ぶものであり、周辺自治体（上越市）は立地自治体と同等の権利を有するということである。

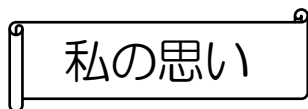
(文責 高野 誠)

## 内部被曝から守るために

3・11の原発過酷事故以来、私の中で、生きる上での価値観がすっかり変わってしまいました。放射能をはらむ原子力発電は、「すべてのいのち」との共存は不可能です。理屈抜きで、そう考えます。また、国が定めた食品流通のベクレル基準値を考えるに、放射線による内部被曝には大変に厳しい今後が予想されます。

幸にも、過去に広島、長崎の原爆下で生き延びた医師や学者の方々の貴重な提言があります。そこには共通して「無農薬の玄米」「古式製法の梅干」「天然醸造の味噌」を食べ、「砂糖」を控えて、日々規則正しく感謝の心を持って前向きに暮らすことの大切さが述べられています。

賢く学び、汚染食品の懸念あるものを体内に入れないことが、まず第一。毎日の食事には、特に気を使いましょ。 「つなげよう脱原発の輪 上越の会」では内部被曝に関する学習会も催して行きます。みなさまの参加をお待ちしています。(K・O)



## 原発事故を無にしないために

仙田 明美 (上越市柿崎区)

私はNPO法人「夢マッチング」や「四季の縁日実行委員会」に参加して市民活動をしています。また、映画「降りてゆく生き方」とともに価値観の変容や自然栽培を推奨しています。

最近の大雨による各地の被害、ことに東日本大震災で、私達は自然の脅威を目の当たりにしました。しかし、本来私達は自然の計り知れない恩恵の下に生きています。この理解を失った結果が、東日本大震災によるまさに取り返しのつかない原発事故を起こしていると思います。

福島の人々の「全人類に警告を発する役目として福島に白羽の矢が立ち、すべての人が成長できる道として用意された平和計画」との言葉には、胸が痛みました。汚染された地球と被害者の犠牲を無にせず、すべての人が当事者の苦しみを推し量り、「正しい生き方をするための変革」に向かうことが、今こそ必要ではないでしょうか。

## 《 募集中 》

### ◆支援物資・カンパ・ボランティア

任意団体「高田教区震災支援有志会」は、福島で生活物資を必要としている人たちのための「青空市場」(福島県二本松市)に毎月物資を届けたり、現地で炊き出しなどを行ったりしています。詳しくはお問い合わせください。連絡先 豊島さん (090-7270-4078)

## 《 活動報告 》

### ◆7/3 月例勉強会

【時間】19:00~21:30

【会場】上越市市民プラザ 第5会議室

【内容】①元刈羽村村議 武本和幸さんと会って学んだこと(柏崎刈羽原発の構造や配管、活断層の問題などについて)

②3月市議会総務常任委員会における内山市議の発言について

◎各担当の事前準備がいつもに増して精妙であり、充実した勉強会に。当日の内容をQ&A形式で簡潔にまとめ大量印刷・拡散し、多くの市民にも知っていただくよう計画しています。

### ◆8/17 くびき野市民活動フェスタ

【時間】10:00~16:00

【会場】上越市市民プラザ<貸切>(当会は1Fロビー)

来場者に「原発シール投票」協力してもらいました!

①柏崎刈羽原発の再稼働に  
→賛成7票(5%)

反対123票(95%)

②柏崎刈羽原発の廃炉  
→即すべき96票(76%)

いずれすべき29票(23%)  
すべきでない1票(1%)



### ◆9/28 大湯集中デリ署名(全県一斉署名)

【日時】9月28日(日) 14:00~16:00

【会場】上越市大湯区

「10.5出張勉強会 in 大湯」と「11.24 脱原発アクション in 柏崎」のチラシを配りながら、大湯区四ツ屋浜、土底浜、湯町の各戸訪問し、49筆を集めました。

### つなげよう脱原発の輪 上越の会◎

代表: 植木史将 (090-4962-9633)

公式ホームページ 続々更新中!

[tunadatu.jimdo.com](http://tunadatu.jimdo.com)

つな脱

検索

### カンパ募集中です

当会は会の趣旨にご賛同いただける皆様からのカンパで運営されています。ご協力よろしくお願ひします。

ゆうちょ銀行から...11260-13169471 (名義当会)

ゆうちょ銀行以外から...ゆうちょ銀行・仔三(一ニ八)・普通預金・1316947 (名義当会)

### ◆◇編集後記◇◇

▼田んぼで猪が大暴れ。さらにスズメバチに刺され、今怖いものは「地震、雷...」ではなく「原発・戦争・猪・スズメバチ」▼初めて編集に参加しました。いろんな意見や立場の人が自由に参加できる「つな脱」らしく、みんなの広場のような役目を本紙が担っていただけたいなと思います(S・S)